

インターバンクの声（2016 年 7 月 25 日）

週末の東京市場のドル円は、前日の夕方に黒田日銀総裁がヘリコプターマネーの導入に否定的な見方を示したとの報道があったことや、日経平均株価が一日中売りになっていたこともあって、早朝を除けば終始105円台で推移した。ただ、ドル売りも105円台中盤までで、欧州勢が参入してきた終盤には106円台に戻した。日銀の追加緩和への期待が根強いことやロンドン午後4時のフィキシングでの円売り決済がいつもより多くなりそうだとの見方などが円売りの背景になっていたが、円売りがさらに進むこともなかった。先週発表された米経済指標が比較的堅調な内容ではあったが、26－27日の米連邦公開市場委員会(FOMC)が利上げを決断するとまでは市場も思っていないとあっては仕方ないところだ。FOMCに対する注目度が低ければ、どうしても週末の日銀金融政策決定会合に目が行ってしまうが、依然として追加緩和に対する期待感が高い以上、今回も何も決まらなくなれば、やはり再び100円に向かい始めるのだろうか。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。